

女性社員の感性を活かし 子育て世代を応援する家づくりを提供

ハゼモト建設株式会社

ハゼモト建設(株)は、2代目の樋本社長が個人住宅事業に着手したことで、社内的人员構成に変化が現れた。住宅設計や間取りに女性の感性を活かす必要があると積極的に女性を採用し、住宅建築を検討する顧客に対し、女性ならではの視点でアドバイスを行っている。「建ててからがお客様との長いお付き合いになる」という同社女性社員たちには、やりがいのある仕事にいきいきとした表情が見て取れる。

取組事例

1 若い社員たちのためのベースづくり

「子育て応援宣言企業」への登録を樋本社長に提案したのは、現在営業管理部で活躍している田代さん。自らの子育て経験を活かし、これから結婚の時期を迎える若い社員たちのためのベースづくりを考えてのことだった。実際、宣言をきっかけに同社が子育てに理解を示していることが社員たちに伝わり、仕事と家庭をうまく両立しているという。

5人の子どもを育てながら正社員として働いている碓木さんは、積極的に休暇を利用して、学校行事などに参加している。

夫婦共働きの社員も多い同社では、育児休業を取得した男性社員の実績もある。また、子どもを保育所に迎えに行き、打ち合わせ室に子どもを連れてきて仕事を続ける男性社員もいる。同社にとって「子育ては、女性だけではなく男性も一緒にすること」という風土ができています。また、同社が企画する顧客を招待しての花見や農業体験では、樋本社長の意向で社員の家族も招待している。



↑リビング風のサンルームが顧客との打ち合わせ室。「子育て世代応援住宅」と称して展開しているだけあり、子どもも安心して連れてこられる

2 再雇用など、個人の事情に合わせた柔軟な受け入れ



↑貴重な戦力である女性社員たちはいきいきと仕事をしている

同社では、個人の事情に合わせた働き方に柔軟に対応している。設計士の相良さんは、元々正社員として勤務していたが、結婚を機に一度退職した。その後、同社から「戻ってこないか」と声をかけられたことで、再び勤務することとなった。「辞めた後も、好きな仕事をまたやりたいと思っていたので、声をかけてもらえて良かった」と相良さんは当時を振り返る。時には残業もあるが、夫の理解があり、今では仕事と家庭をうまく両立している。

そのほかにも、キッチンスペシャリストの資格を持つプランナーの近藤さんやグラフィックデザイナーの堀江さんは、フルタイム勤務では時間の調整が難しいことからパートとして勤務しており、勤務日や勤務時間などについては希望に応じて柔軟に対応してもらっている。

個人の働き方に合わせ企業側の受け入れを柔軟にすることで、その個人の能力を十分に活かせる環境ができ、結果的に顧客の満足へとつながっている。「いろいろと経験を積んできた人材がそろっている。家庭の協力も不可欠だが、長く働き続けられるよう今まで以上に子育て応援の取り組みを充実させていきたい」と田代さんは語る。